

■ 殿様日記 vol.3 お印

平成25年皐月

今回で第3回目を迎える「長岡藩主牧野家の至宝展」は、5月30日（木）から6月2日（日）までアオーレ長岡の3階で開催される。

「かしわ、^{あまりよう}雨籠、^{ごけん}五間ばしご」と題して牧野家に伝わる調度品、長棹、箆筒や市民の皆様が伝えてこられた品々も展示する。

ここでは長棹や箆筒についている「お印」について記したいと思う。

私の父方、母方の祖母は共に伊勢津藩 32 万 4 千石の大名藤堂家の姉妹である。妹にあたる^{とうご}鉦子は藤堂高潔の三女で牧野忠篤夫人となり、姉にあたる^{つやこ}銚子は藤堂高潔の次女で^{くぎょう}公卿 高倉永則夫人となった。それゆえ、2人のおばあ様からの藤堂家のお道具が我が家に残っているが、当時は皇族方のように各人に「お印」が決まっていたので、どの方の持ち物なのかがよく分かるようになっていた。ちなみに、^{はつこ}鉦子様は柳印、銚子様は松葉印、母 元子は扇印であった。

長棹や箆筒以外にもお道具類を包んでいた箱やふろしき類すべてに「お印」が記されている。例えば、銚子様の御針箱が入っていた箱の表書きには「御定紋ちらし御針箱 壺個 松葉印」と記されている。座布団を包む大ふろしきの隅にも「松葉印」と書かれている。藤堂家の家紋は^{つた}蔦でお道具類には蔦の花と蔦の葉の紋が散らしてある。



↑ 鉦子様 の長棹の鍵（柳印）



↑ 銚子様 の箆筒黒漆塗鍵（松葉印）



↑ ふろしき（蔦の紋と柳印）



↑ 長棹黒漆塗（柳印）

我が家に伝わるおひな様の箱の表にもそれぞれ「お印」が記載されており、どの姫君の持ち物なのかを判別する事が出来る。

今回展示する長棹や箆筒にはそれぞれ木札が付けてあり、表裏に「お印」と通し番号がふられている。

最近「お印」が使われなくなったのは、戦後の学校制度の都合などもあり、品物に直接名前を書くことに、はばかりが無い時代になったからかもしれない。今は一般に使用されなくなった「お印」を今回の至宝展でご覧頂ければ幸いである。

蛇足であるが、今、皇族の中で最もお若い秋篠宮悠仁親王様の「お印」は^{こうやまき}高野槇、その木は悠久山でも見る事が出来る。